

Case15 : クッシング症候群を疑ったキャバリアに 脂質代謝改善治療を実施した1例

【Profile】

- ・動物種 : イヌ
- ・品種 : キャバリア・キングチャールズ・スパニエル
- ・性別 : 雌 (避妊済み)
- ・年齢 : 8歳8か月
- ・体重 : 9kg
- ・B.C.S.=4
- ・病歴 : 1年前より特発性てんかんを発症
- ・主訴 : フェノバルビタール,臭化カリウムにて特発性てんかんのコントロールを図るも、2~3回/月の発作が発現。徐々に多飲多尿、食欲亢進の症状が進行。1年前より1.5kg体重増加。
- ・副腎皮質機能亢進症の発症も考慮し、各種検査を実施

【検査】

■ 血液・生化学

T-Cho: 593 mg/dl, TG : 189 mg/dl

ALP : 7,792 U/dl, GPT : 481 U/dl で異常高値

■ その他

- ・ACTH刺激試験 コルチゾール値
Pre: 5.6 µg/dl, Post: 19.1µg/dl
- ・超音波検査 : 重度胆泥貯留、左右副腎8mmφ
- ・X線検査 : 軽度肝肥大、変形性脊椎症

■ LipoTEST検査結果 (1回目)

分類 : パターン4・複合逆転型 (右図)

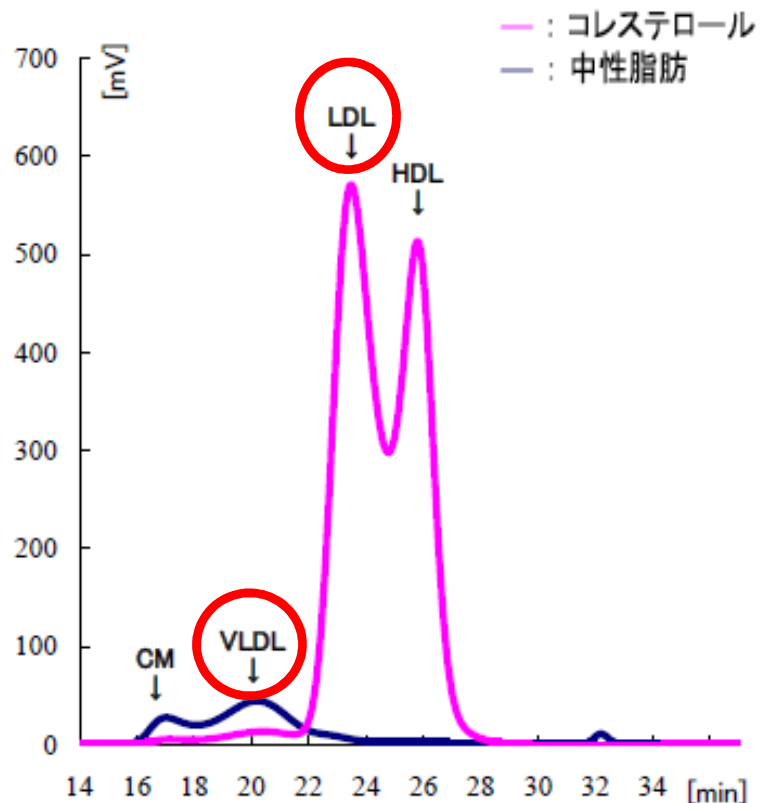
VLDL-Cho: 13 mg/dl

LDL-Cho: 295 mg/dl

HDL-Cho: 282 mg/dl

CM-TG: 47 mg/dl

VLDL-TG: 118 mg/dl の異常高値。



【診断と治療計画】

- ・検査結果より、副腎皮質亢進症 (PDH, グレーゾーン), 脂質代謝異常症, 胆泥症と診断した。
- ・治療薬として「エリスロマイシン」「ウルソ」を投与。
さらにLipoTEST結果の分類に基づき、脂質代謝改善薬として「メバロチン」を投与。
- ・食事を市販シニア用ドライフードから、消化器サポート低脂肪 (ロイヤルカナン) に変更。
- ・治療開始後約3ヵ月半後に、治療効果検証のため再検査を行った。 ⇒ 裏面に続く

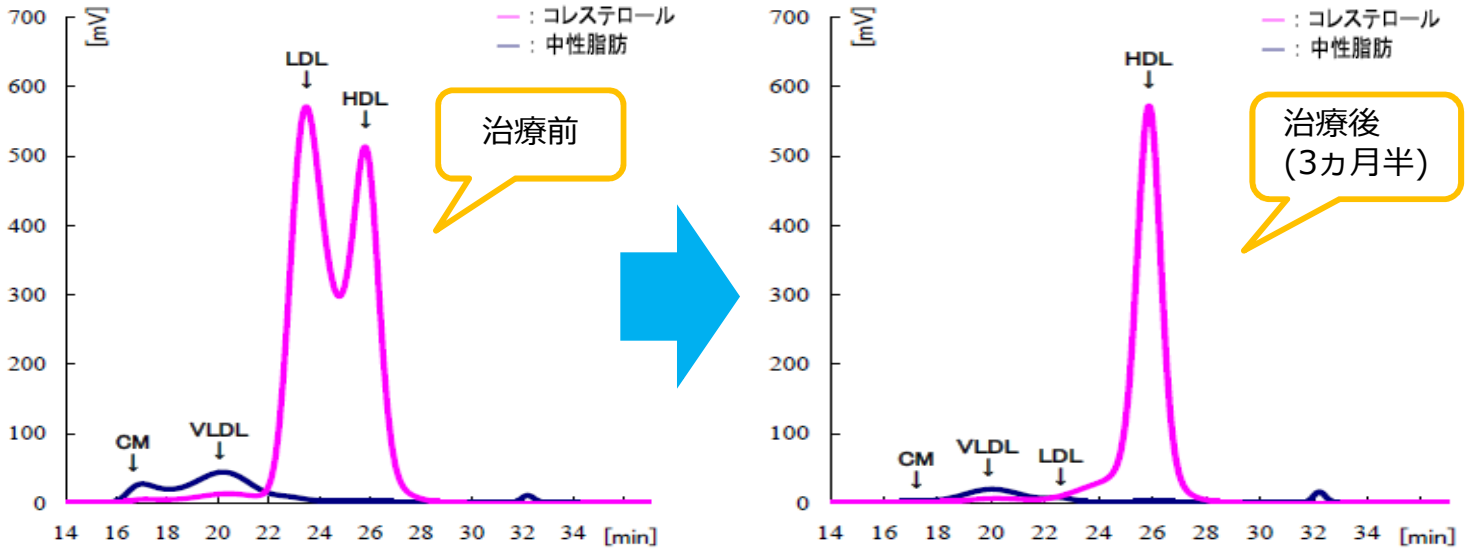
【結果】

■ LipoTEST検査結果の変化 (1回目→2回目, 単位:mg/dl)

T-Chol: 593→**228**, VLDL-Chol: 13→**6**, LDL-Chol: 295→**14**, HDL-Chol: 282→**208**

TG: 189→**68**, CM-TG: 47→**6**, VLDL-TG: 118→**47**

と、いずれも正常数値へ改善。波形も以下の通り正常化。



- ALPは7,792→**4,125** U/dl, GPTは481→**83** U/dlと数値改善し、ACTH刺激試験コルチゾール値もPre5.6→**5.0**, Post19.1→**17.7**μg/dlと改善した。
- 胆泥の貯留量が著しく改善し、多飲多尿、てんかん症状も改善した。

【解析結果に基づく治療への評価】

- 本症例では、副作用のリスクがあるクッシング治療薬を使用せずに臨床症状を改善できた。
 - クッシング症候群の確定診断を行うためには、ACTH刺激試験後の低用量デキサメタゾン負荷試験の追加もしくは画像診断の実施を推進すべきである。
- しかし鑑別診断の段階で脂質代謝異常がある場合は、LipoTESTによる詳細検査ならびに脂質代謝改善薬導入で治療を開始し、診断の精度を高めてから、クッシング治療可否を検討することができ、有意義であると思われる。

症例提供：めぐみ動物病院 上田一徳 先生 (神奈川県)

◆ LipoTESTに関するお問合せ先 スペクトラム ラボ ジャパン 株式会社

* 検体送付キットの請求は、下記記入のうえ、FAX (03-5731-3631) にてご返送下さい。

病院名		氏名	
住所		TEL	

詳しい情報に関しては、LipoTEST Webをご覧ください。URL: <http://www.lipotest.jp/>